

まちづくり交付金 フォローアップ報告書
湯町地区

平成23年3月

山口県下関市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	宿泊客数	人/年	53,470	58,300	40,726	確定 見込み ●	△	あり なし ●	35,253	H22年6月	△	予想以上に不況が続いた	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	不況の影響を受け、宿泊での温泉観光を取り巻く環境が悪化したが、個々の旅館においては改善がみられた。
指標2	観光関連店舗数	店	14	17	12	確定 見込み ●	△	あり なし ●	14	H22年6月	△	出店があった	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	店舗の再開は実現しなかったが、新たに出店があった。
指標3	地域来訪者数	人/年	341,276	355,000	301,274	確定 見込み ●	△	あり なし ●	270,412	H22年6月	△	予想以上に不況が続いた	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	不況の影響を受け、温泉観光を取り巻く環境が悪化したが、他の観光施設との連携を強化する努力がうかがえる。
指標4						確定 見込み		あり なし		H 年 月			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 見込み		あり なし		H 年 月			<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1	新資料館の入館者数	人/年	2579	/	5176	確定 見込み	/	/	26,013	H23年2月	/		<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	改善が見られた
その他の数値指標2	イベント(川棚温泉まつり)のよさこい踊り出演者数	人	925	/	1330	確定 見込み	/	/	1247	H22年5月	/		<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	改善が見られた
その他の数値指標3			/	/	/	確定 見込み	/	/		H 年 月	/		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	観光交流センターの有効活用	・市と川棚温泉まちづくり株式会社との公民連携による勉強会の実施 ・従来から有る川棚温泉まつりの実施、新たに交流センターでのイベントの実施	・地区内のイベントが増加した。 ・鳥山民俗資料館の入館者が増加した。	・イベント参加者をリピーターとして固定化と宿泊への誘導
	景観の維持	・市と川棚温泉まちづくり株式会社等の地元組織と連携した、清掃・美化運動。	・意識改革ができた。	・活動の継続
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	整備したハードと観光振興のためのソフト面の取り組みとの相乗効果の強化	・川棚温泉まちづくり株式会社による観光客や店舗経営者を対象としたアンケート調査等の支援 ・川棚温泉まちづくり株式会社による他の観光施設での割引チケットの配布 ・実施していない	・問題点がわかった。 ・初年度に比べ利用者が減少した。	・課題を具体化すること ・配布先、配布方法の検討が必要
	規模の大きな店舗における利用者の減少改善	・実施していない		・想定される事業の実施
	店舗の老朽化・陳腐化の改善	・川棚温泉まちづくり協議会等での呼びかけと勉強会を実施した。	・改築した民間施設を景観に配慮した建物にした。	・継続した勉強会の実施
	回遊する観光客を見込んだ店舗の整備と体制づくり	・豊浦地区観光ガイドブックの原稿提出 ・観光ボランティアの育成	・平成22年度原稿提出 ・2名育成中	・ガイドブックの完成と観光ボランティアの継続的な育成
	新規出店の促進等の店舗の減少防止	・川棚温泉まちづくり株式会社と市による新規出店希望者への情報提供と支援	・1店舗の出店予定	継続的な実施

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画（第4回変更）

ゆ ま ち ち く
湯町地区

やまぐち 山口県 しものせき 下関市 とようら ちよう 豊浦町

平成21年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山口県	市町村名	下関市	地区名	湯町地区	面積	26 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度				

目標
 当該地区が有する歴史的資源、自然的資源などを活用し、これら資源の有機的な連携を図り温泉街の回遊性を創造することにより、観光・交流によるまちなかの賑わいを取り戻し、魅力満載のやすらぎの空間の創造を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況
 ・川棚温泉を有する湯町地区は、北九州市や下関市の奥座敷として数多くの来訪者で賑わいを呈していたが、モータリゼーションの進行やリゾートニーズの多様化に伴い宿泊客など観光客が減少し、それに伴い当該地区の観光関連店舗の廃業が目立ち、まちなかに活気が見られない状況となっている。
 ・豊浦町総合計画（平成13年3月）では、湯町地区を交流・リフレッシュ機能および観光の拠点として位置づけ、魅力ある温泉街の形成を図る地区として、町をはじめ各関係機関が各施策の実現に向けて取り組んでいる。
 ・当該地区では、まちの活性化に向け住民主体のまちづくりを推進する組織として「川棚温泉まちづくり振興委員会」が設立され、川棚温泉街の振興を図る機運が盛り上がっている。
 ・都市再生整備計画の策定にあたり、本町では、「湯町地区まちづくり基本構想」を策定するとともに、「川棚温泉まちづくり振興委員会」との調整を図り、当該地区の活性化に向けて活動を行っている。

課題
 豊浦町における観光振興は、多様化する新たなニーズに対応するために、老朽化や陳腐化した既存観光施設の再整備を進め観光基盤施設の再整備を図ることにより来訪者など観光客の交流人口の増加、観光関連店舗の進出による産業の振興など地域の活性化を行っていくことが課題である。
 ・本町の入込み観光客は、平成9年から平成14年の5年間に年平均3.7%の減少を示している。特に、当該地区の入込み観光客は、平成15年と平成10年では、8ポイントと減少が顕著であることから、来訪者など観光客の増加に向けて、当該地区の老朽化や陳腐化した観光基盤施設を多様化するニーズに対応した施設へと再整備が必要である。
 ・当該地区内のメイン道路は狭隘な道路であり歩車の分離が行われておらず、地区の賑わいに寄与する観光客や来訪者が安全に安心して通行できる空間整備が必要である。また、その他地区内道路についても狭隘な道路が多く、来訪者など観光客にわかりやすいアクセス道路の整備も必要である。
 ・当該地区内には来訪者など観光客が休憩や地域住民と交流する施設が不足しており、来訪者など観光客が訪れた際に拠点となる施設や広場を整備し、来訪者や観光客同士あるいは地元住民との交流や情報交換が行える施設や場所を確保する必要がある。
 ・また、現在地区内の賑わいを図るために、地区内を気軽に、また、安全に安心して散策できるよう、案内板やサインの整備も必要である。

将来ビジョン（中長期）
 ・豊浦町総合計画（平成13年3月）では、湯町地区を交流・リフレッシュ機能および観光の拠点として位置づけ、魅力ある温泉街の形成を図る地区として、町をはじめ各関係機関が各施策の実現に向けて取り組んでいる。
 ・川棚温泉観光旅館組合の策定した「川棚温泉の需要開拓策を考える（平成11年3月）」では、温泉を取り巻く自然にめぐまれ、北九州・関門経済圏の周辺部に位置し、都市近郊リゾート地として高いポテンシャルを有する湯町地区については、新たなコンセプトの提示と地域イメージの鮮明化を追求し、来訪者など観光客への安らぎ、いやし、人間性回復といったニーズに対していくことが提言されている。
 ・また、まちの活性化に向け住民主体のまちづくりを推進するために「川棚温泉まちづくり振興委員会」が設立され、湯町地区の振興を図っていくこととされている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度	目標年度	基準年度	目標年度
宿泊客数	人/年	地区内宿泊施設の年間宿泊客数	湯町地区来訪者の増加を宿泊者（リピーター、PR効果）の増加につなげていき、基準年度の10%増を見込む。	53,470	平成15年度	58,300	平成20年度
観光関連店舗数	店	地区内の観光関連店舗数	観光交流センター（建物と広場）の整備により、来訪者、宿泊者の増加が見込まれ、これに伴う、みやげ物店、飲食店等の観光関連店舗の誘致が見込まれる。	14	平成15年度	17	平成20年度
地域来訪者数（観光入込客数）	人/年	地区を訪れる観光客数	来訪者数は、基準年と平成10年のピーク時では、8ポイント減少している。今回の整備等により、5年間で4ポイントの上昇を図り1,000人/月（12,400人/年）の増加を見込む。	341,276	平成15年度	355,000	平成20年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1（歩行者優先まちなかゾーン形成） 川棚温泉街の中心地区として、来訪者など観光客が安全で安心して歩行でき、また、当該地区内への人の集客を促進することによって、賑わいのある昔ながらのまちなかを形成するために、町道湯谷1号線や湯谷線の道路幅員の拡幅による歩道の設置並びに車道部の車両通過速度の減速効果など措置を工事、地域のメインエリアとしての整備を推進する。</p>	<p>道路(基幹事業) 高質空間形成施設(基幹事業/道路修景舗装、街路灯) 高次都市施設(基幹事業/観光交流センター) 特定交通安全施設等整備事業(関連事業/道路)</p>
<p>整備方針2（まちなか回遊ゾーン形成） 川棚温泉街の活性化としては、当該地区全体が昔ながらの賑わいを取り戻すことが重要であり、そのために、地区内を散策・観光する来訪者など観光客の増加を図ることが必要であることから、来訪者など観光客をまちなかに回遊させるための仕組みとして、まちなかの通過交通の排除並びに安全に安心して誰もが歩行できる空間整備や来訪者など観光客への当該地区の情報発信のための施設整備および散策・観光の質的向上を図るためサイン・案内板整備を行い、来訪者等観光客の利便性、安全性の向上の促進を図る。</p>	<p>道路(基幹事業) 高質空間形成施設(基幹事業/ゲート、街路灯) 地域生活基盤施設(基幹事業/サイン、案内板、まちなか広場) 高次都市施設(基幹事業/観光交流センター) まちづくり活動推進事業(提案事業/まちづくり協議会)</p>
<p>その他</p>	
<p>○住民参加のまちづくり活動 ・当該地区では、「川棚温泉まちづくり振興委員会」が主体となってソフト面に主眼を置いた温泉街の活性化についての検討を行っている。従って、本協議会は、この委員会での活動内容を踏まえた上で、湯町地区全域における将来のあり方について、ハード・ソフト面両方から検討を行い、誰もが安全で安心して暮らせ、また、来訪者など観光客がまちを歩き、地域住民と来訪者など観光客が交流し賑わいが生まれる町を目指して、まちづくりについての各種勉強会及び意識向上を図るものである。なお、事業実施中における計画管理についても行政とパートナーシップのもと行うものとする。</p>	

